

## 沖縄県 糸満圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は、県内最大規模で唯一の第3種漁港である糸満漁港を流通拠点とし、県都那覇市を含めた本島中南部8市5町9村、16漁協、24漁港で構成される圏域である。圏域全体の陸揚げ金額は約77億7,900万円（令和元年）に上り、県内最大を誇る。

当圏域に位置する市町村のうち、那覇市は生産拠点に位置づけられている泊漁港の他1漁港を有している。泊漁港の産地市場では、当該漁港で陸揚げされたマグロ類や沿岸魚類のほか、県外・県内漁港から水産物が集荷されることから、県内最大規模の取扱量を誇っており、市内のみならず県内水産物の安定供給に重要な役割を担っている。また、県都の好立地を生かし、泊漁港内にある直売所（泊いゆまち）では、地元客や観光客が連日多数訪れ、一大消費産地として地域活性化に貢献している。

糸満市は、県内唯一の第3種で流通・輸出拠点に位置づけられている糸満漁港の他1漁港を有している。糸満漁港の産地市場では、県の拠点産地認定を受けているソデイカやマグロ類を中心とした鮮魚類やモズクが陸揚げされるほか、圏域内の漁港から水産物が集荷され、海外・県外・県内に出荷されていることから、市内のみならず県内水産物の安定供給に重要な役割を担っている。また、糸満漁港では、令和4年度に泊漁港の一部産地市場との統合による高度衛生管理型の荷さばき所や関連する加工施設等の整備を予定しており、さらなる流通機能の強化が見込まれている。さらに、糸満漁港は、周辺に水産物直売所（お魚センター）や道の駅、糸満ふれあい公園（美々ビーチ）等の施設があり、地元客や観光客が多数訪れ、地域の活性化に貢献しているほか、今後これら施設と糸満漁港の連携による産業振興も期待されている。

沖縄市は、生産拠点に位置づけられている泡瀬漁港を有しており、漁港内の産地市場では当該漁港で陸揚げされたマグロ類やソデイカ、モズク等の水産物のほか隣接漁港から集荷され、県内・市内に出荷されている。さらに、泡瀬漁港は、背後には直売所（パヤオ直売店）や水産物レストランがあり、地元客や観光客が連日多数訪れ、地域活性化に貢献している。

うるま市は、流通拠点に位置づけられている平敷屋漁港の他7漁港を有しているが、本圏域には南原漁港のみ含まれる。市内の他の漁港では、主にモズク養殖業が行われる一方、当該漁港では、刺網や潜水器漁業による沿岸魚類が陸揚げされ、浜売り等により市内の鮮魚類の安定供給に貢献している。また、南原漁港では、背後に水産

物の直売所があり地元客を中心に賑わいをみせているほか、漁協が地元中学生を対象としたイベント（魚捌き体験等）を実施しており、地域の水産振興に寄与している。

中城村は、中城浜漁港を有し、漁港内の産地市場では当該漁港で陸揚げされた刺網や潜水器漁業等による沿岸魚類が取り扱われ、村内への水産物の安定供給に貢献している。また、当該漁港の荷さばき所では、定期的に漁協主催の朝一が開催されており、地域の水産振興に寄与している。

与那原町は生産拠点である当添漁港を有しており、主に県の拠点産地認定を受けているソデイカのほかマグロ類やひじき等の水産物が陸揚げされ、相対取引等により県外・県内に出荷されている。また、県内でいち早く高度衛星管理の荷さばき所が整備されているほか、漁協を中心にソデイカの付加価値向上対策（大日本水産会の認定、鮮度維持）等の水産業の競争力強化に向けた取組が推進されており、漁業従事者数や漁船隻数が増加傾向にある。

南城市は生産拠点に位置づけられている海野漁港や志喜屋漁港の他2漁港を有している。海野漁港の産地市場があり、当該漁港で陸揚げされたマグロ類やソデイカ等のほか、市内の各漁港で陸揚げされた主に鮮魚類が集荷され、県内・市内に出荷されている。一方、志喜屋漁港の沿岸では、モズク養殖が盛んに行われ当該漁港内に陸揚げされるとともに、圏域内で生産されたモズクのほとんどが当該漁港に集約され、漁港内で加工し、県外・県内に出荷されている。また、奥武漁港では漁港内に直売所があり、地元客だけでなく観光客も多数訪れ、地域活性化に貢献している。

八重瀬町は港川漁港を有し、漁港内の産地市場では、当該漁港で陸揚げされた浮魚礁漁業やイカ釣り漁業によるマグロ類やソデイカ等の水産物が取り扱われ、村内の安定供給に貢献している。一方、近年は漁業就業者数が減少傾向にあるため、近隣の漁協との統合による市場機能の集約化等が検討されている。

豊見城市は与根漁港を有しており、主に浮魚礁漁業によるマグロ類が陸揚げされ、産地市場を有する糸満漁港に出荷されるほか、一部は相対取引や浜売りにより市内に出荷されている。与根漁港は、主に漁船の休憩利用としての役割を担っている。

浦添市は生産拠点に位置づけられている牧港漁港を有しており、いか釣りによるソデイカや漁港内で生産された海ぶどう等の水産物が、当該漁港や隣接する漁港の漁船から陸揚げされ、漁港内の産地市場や相対取引により、県外・県内に出荷されている。今後、牧港漁港では、高度衛生管理型の荷さばき所の整備が検討されており、さらなる流通機能の強化が見込まれるほか、漁協によるシラヒゲウニの養殖試験が行われる等、水産業の競争力強化に向けた取組が推進されている。

宜野湾市は宜野湾漁港を有しており、主にいか釣りによるソデイカや漁港内で生産された海ブドウが陸揚げされ相対取引により、市内に出荷されている。ほとんどの陸揚げ作業が牧港漁港に集約されていることから、当該漁港は、主に漁船の休憩利用としての役割を担っている。

北谷町は浜川漁港を有しており、漁港内の産地市場では、素潜りや刺網等による沿岸魚類を中心とした水産物が陸揚げされ、町内への水産物の安定供給に貢献している。また、当該漁港は周辺にホテルが建設されているほか、漁業活動のほか遊漁船漁業やダイビング業も盛んに行われていることから、地域の活性化に貢献している。

読谷村は都屋漁港を有しており、1本釣りやいか釣り、定置網によるマグロ類やソデイカ、沿岸魚類などの水産物が当該漁港及び隣接漁港の漁船から陸揚げされ、漁港内の産地市場や相対取引等により、県外・県内に出荷されている。また、当該漁港では、漁港内には水産物直売所や水産物レストランがあり地元客を中心に賑わいをみせているほか、漁協主催でイベントや漁業体験を実施しており、地域の水産振興に寄与している。

嘉手納町は嘉手納漁港を有しており、主にはえ縄漁業や潜水器漁業により沿岸魚類が陸揚げされ、近隣の漁港に出荷されるほか相対取引等により町内に出荷されている。また、漁業では、地元の中学生を対象にした漁業体験や地域イベントへの水産物の出品等に取り組んでおり、地域の水産物の振興に貢献している。

座間味村は生産拠点である阿嘉漁港を有しており、ひき縄釣りによるかじき類やマグロ類等の水産物が陸揚げされ、多くが県内の産地市場に出荷されるものの一部は、浜売り等により島内に流通されている。また、当該漁港では慶良間諸島国立公園に指定されており、遊漁船漁業やダイビング業が盛んに行われ地域活性化に貢献するとともに、漁協によるサンゴ養殖活動により漁場保全に努めている。

渡嘉敷村は阿波連漁港を有しており、浮魚礁漁業や潜水漁によりマグロ類やシイラ類等の水産物が陸揚げされ、多くが県内の産地市場に出荷されるものの一部は、浜売り等により島内に流通されている。また、漁協では、陸揚げされた水産物を活用した加工品（マグロジャーキー）を販売しており、年々売り上げを伸ばすなど、水産物の競争力強化に取り組んでいる。

渡名喜村は生産拠点である渡名喜漁港を有しており、引き縄や刺網、採貝によるカツオ類や沿岸魚類、貝類（サザエ、夜光貝）などの水産物が陸揚げされ、多くが県内の産地市場に出荷されるものの一部は、浜売り等により島内に流通されている。また、近年、漁協では島内沿岸域においてシャコガイ養殖を行っており、漁港の利用促進が図られている。

粟国村は粟国漁港を有しており、ひき縄釣りによるマグロ類やサワラ類等の水産物が陸揚げされ、島内に流通されている。当該漁港では、遊漁船業やダイビング業も盛んであり地域の活性化に貢献している。

北大東村は南大東漁港（北大東地区）を有しており、一本釣りやひき縄釣りによるマグロ類やサワラ類等の水産物が陸揚げされており、ほとんどが相対取引により県内に出荷され、一部は浜売り等により島内に流通されている。また、漁協では魚価向上の取組として、積極的な神経締め等の鮮度保持や品質管理対策を行っているほか、南

大東漁港（北大東地区）内の水域を活用したシャコ貝の養殖により漁港の利用促進を図る取組が検討されている。

南大東村は南大東漁港（南大東地区）を有しており、一本釣りによるマグロ類やサワラ類等の水産物が陸揚げされており、ほとんどが相対取引により県内に出荷され、一部は浜売り等により島内に流通されている。また、近年、クルーズ船や遊漁船等が来島しており、当該漁港内でイベント（マグロ解体ショー）を開催するなど、地域の活性化に貢献している。

## ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

圏域における水産物の生産量は令和元年度で 12,744 トンとなっている。主な漁業種類および魚種は、延縄、イカ釣り、海面養殖であり、マグロ類やイカ類、モズク類である。また、主要魚種の実生産量は、マグロ類で 6,758 トン、イカ類で 1,733 トン、モズク類で 3,534 トンとなっている。

圏域全体では、地球温暖化によるサンゴ礁の減少等に伴い、沿岸域の資源量は総じて低下しているものの、沖合域では、漁船の大型化によるマグロはえ縄等の遠方進出や浮魚礁の設置による安定した生産量の確保、ソデイカの旗流し漁業による海域毎の旗本数制限等の資源管理により、近年の実生産量は横ばいで推移している状況となっている。また、漁協が主体となってサンゴ養殖やハマフエフキ等の種苗放流など水産資源の回復に取り組んでいる。

## ③ 水産物の流通・加工の状況

当圏域では、圏域内の漁港内に 10 箇所の産地市場が開設されており、鮮魚類を中心とした水産物の多くが当該産地市場を通して県外・県内に出荷されているものの、特定魚種や離島地域においては、相対取引や浜売りにより地域内外に流通されている。また、圏域内にソデイカ（糸満漁港）やモズク類（志喜屋漁港）、ひじき（当添漁港）の加工施設が漁港内に隣接されており、ほとんどが 1 次加工され県外・県内に出荷されている。また、一部の漁協（渡嘉敷）では、島内で陸揚げされたマグロ類を 2 次加工しマグロジャーキーとして販売している。

## ④ 養殖業の状況

圏域における主要な養殖水産物の生産量は令和元年で 3,567 トンとなっている。主な水産物としてモズク類や海ぶどう（クビレズタ）である。また、志喜屋漁港においてはモズク類の養殖生産拠点地域に位置づけられており、種苗生産から加工まで一貫した体制が整備されている。

**⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況**

令和元年における圏域内の組合員数は1,621人、漁業経営体数は975体であり、平成26年に比べそれぞれ12人（0.01%）減、43体（0.04%）減でやや減少傾向にある。県内漁業就業者の年齢構成に鑑みれば、その傾向は継続するものと思われる。

**⑥ 水産業の発展のための取組**

糸満地区では、浜の活力再生プランにおいて魚価向上のための鮮度管理の取組や新規就業者の支援や漁業者の高齢化に伴う環境整備に向けて取り組むこととしているほか、南城地区では、浜の活力再生プランにおいて海野漁港に新しい製氷施設を整備することとしている。また、那覇地区他5地区で同プランを策定している。

**⑦ 水産基盤整備に関する課題**

圏域内における水産基盤においては、水産業の成長産業化の実現に向けた水産物の安定供給の確保、海洋環境の変化に対応した浮魚礁等の整備、漁港・漁村の災害リスクへの対応力強化、漁港施設の予防保全型等の老朽化対策、海業等による漁村の活性化、多様な人材が活躍できる漁港・漁村の環境整備などの課題を抱えている。

**⑧ 将来的な漁港機能の集約化**

圏域内における産地市場（泊漁港）のセリ機能の一部を糸満漁港に集約化し、新たに糸満漁港に高度衛生管理型の新荷さばき所を整備し漁港の流通機能の強化を図るほか、中城浜漁港の産地市場を海野漁港及び当添漁港の産地市場に集約する予定となっている。また、中城浜漁港他5漁港の準備機能の一部を集約化し、海野漁港に新たに製氷施設を整備することが検討されている。

**(2) 圏域設定の考え方**

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；本県唯一の第3種漁港で流通拠点として位置づけられている糸満漁港の産地市場に圏域内の水産物が集荷され、海外・県外・県内に出荷される。
② 圏域範囲	うるま市、沖縄市、浦添市、宜野湾市、南城市、糸満市、豊見城市、那覇市、西原町、	設定理由；圏域内の流通拠点となっている糸満漁港を主な集約先とすることが見込まれる範囲。

	与那原町、八重瀬町、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、読谷村、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村、粟国村、北大東村、南大東村	
③ 流通拠点漁港	糸満漁港	<p>設定理由；糸満漁港は圏域内唯一の第3種漁港で、県外船による水揚げや周辺漁港から水産物が集荷され、その取扱量は約1,992トンとなっている。また、糸満漁港内に高度衛生管理型荷捌き施設を整備し、県内最大の産地市場である泊魚市場の一部を移転統合することにより、取扱量は5,000トンを超える見込みである。</p> <p>今後は、輸出先国等のニーズに対応した衛生管理水準を導入するとともに災害発生後も圏域内の流通の拠点としての機能を早期に回復させる体制を整備するため、BCPの策定や災害時の漁港利用者の避難対策を検討する。また、産地市場のICTの導入についても検討する。</p>
④ 生産拠点漁港	泡瀬漁港	<p>設定理由；泡瀬漁港は、圏域内にある南原漁港から水産物が集荷され、漁港内産地市場を通して県内へ出荷している。当漁港は第1種漁港であり、陸揚金額は159百万円である。また、今後、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備等を検討する。</p>

	当添漁港	<p>設定理由；当添漁港は、沖縄本島東海岸のマグロ類やソデイカ等の生産基地となっている。当漁港は第1種漁港であり、陸揚金額は492百万円である。また、現在、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備等を実施している。</p>
	南大東漁港	<p>設定理由；南大東漁港は、第4種漁港であり、大東島周辺海域はマグロ類やソデイカ等の良好な漁場を有していることから、漁場開発の前進・避難基地として重要である。また、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設が確保されている。</p>
	泊漁港	<p>設定理由；泊漁港は第2種漁港であり、陸揚金額が約33億円である。現在は県内最大の陸揚拠点となっているが、糸満新市場開設後は一部糸満市場での陸揚が想定される。今後は、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備を検討している。</p>
	牧港漁港	<p>設定理由；牧港漁港は、沖縄本島中部西海岸におけるソデイカ等の生産基地である。当漁港は第1種漁港であり、陸揚金額は298百万円である。また、現在、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備等を実施している。</p>

	海野漁港	設定理由；海野漁港は第2種漁港であり、陸揚金額が201百万円である。現在は南城市における陸揚拠点として、周辺漁港から水産物が集荷され、漁港内産地市場を通して県内へ出荷している。今後は、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備を検討している。
	志喜屋漁港	設定理由；志喜屋漁港は第1種漁港であり、陸揚金額が811百万円である。モズクの養殖生産が盛んであるほか、周辺漁港から集荷されており、漁港内の加工場で加工され県内や県外に出荷されている。今後、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設の整備を検討している。
	渡名喜漁港	設定理由；渡名喜漁港は第1種漁港であり、登録漁船隻数が80隻、陸揚金額が56百万円である。また、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設が確保されている。
	阿嘉漁港	設定理由；阿嘉漁港は第1種漁港であり、利用漁船隻数は148隻である。また、台風等荒天時における避難漁船の安全係留施設が確保されている。
⑤ 輸出拠点漁港	糸満漁港	設定理由；泊市場の一部との市場統合が予定されており、高度衛生管理型荷捌き施設や関連施設の整備を実施している。市場開設後は高度衛生管理に取り組むほか、隣接する那覇空港のハブ機能を活用し、国内外



		への生鮮マグロ、イカ類の販路拡大が見込まれる。	
(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	12,744	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,595
圏域の総漁港数	24	圏域内での輸出取扱量(トン)	
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数			
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	志喜屋漁港		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	モズク類		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	2,919		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	808		

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・生産拠点である泊漁港の産地市場の一部を流通拠点及びマグロ類やイカ類の拠点産地である糸満漁港に集約し、新たに高度衛生管理型の荷さばき所及び関連施設を整備することにより、産地の価格形成力の向上や流通コストの縮減を図る。
- ・漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増進等の整備することにより、拠点漁港における生産・流通機能の強化を図る。
- ・地域の中核的な生産拠点となる漁港において安定した漁業生産等に資する施設機能の強化を図るほか、産地市場のICT化について検討する。

#### ② 養殖生産拠点の形成

- ・本圏域の主力水産物であるモズクの養殖生産拠点地域において、防暑施設等の整備により品質管理体制の強化を図る。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・沿岸域の資源低下等の海洋環境変化に対応するため、沖合域への漁業展開を促進するため、浮魚礁の整備を行うとともに、海域の環境変化を把握するため亜熱帯海域の重要な基礎生産の場であるサンゴのモニタリングを検討する。

#### ② 災害リスクへの対応力強化

- ・地震・津波、波浪等に対し施設の安全性が十分確保されていない漁港において、漁港施設の防災対策を行い漁業地域の安全・安心を確保する。
- ・耐波対策等を実施することにより、緊急物資等の拠点となる漁港や離島等の生活航路を有する漁港で台風等の自然災害に対する対応力を強化する。
- ・老朽化が進行している漁港施設において、効率的な維持管理を行うとともに機能保全計画の見直しや予防保全型の老朽化対策を実施することにより、持続可能なインフラ管理を推進する。

**(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上**

**① 「海業」による漁村の活性化**

- ・圏域内の漁協において、地域の特性を生かした漁獲物の鮮度向上やブランド化等の漁業所得向上のための取組や「浜の活力再生プラン」を作成・実践し、海業等の多様な取組による地域の活性化を図る。

**② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍**

- ・生活航路を有する離島等の漁港において、防波堤や防風柵の整備等による安全対策の推進により、漁村の活性化を推進する。
- ・高齢化等により生産活動を支える人材が減少してきていることから、多様な人材が安全で働きやすい環境が整備されていない漁港において、浮体式船岸や防暑施設等を整備し、就労環境の改善を図る。

**3. 目標達成のための具体的な施策**

**(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化**

**① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化**

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
糸満	流通機能強化 輸出促進	水産流通	糸満	3	糸満
南大東	流通機能強化	水産生産	南大東	4	糸満
泊	流通機能強化	水産生産	泊	2	糸満
当添	流通機能強化	水産生産	当添	1	糸満
海野	流通機能強化	水産生産	海野	2	糸満
泡瀬	流通機能強化	水産生産	泡瀬	1	糸満
渡名喜	流通機能強化	水産生産	渡名喜	1	糸満
阿嘉	流通機能強化	水産生産	阿嘉	1	糸満
牧港	流通機能強化	水産生産	牧港	1	糸満
志喜屋	流通機能強化	水産生産	志喜屋	1	糸満

- ・水産物の流通の拠点となる糸満地区において、産地市場の集約や ICT 導入による生産活動の効率化等により生産・流通機能の強化を図るとともに、高度な衛生管理荷対応した荷さばき所や関連施設を一体的に整備する。
- ・当添地区及び牧港地区において、漁船の大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増進等の整備することにより、拠点漁港の生産・流通機能の強化を図る。
- ・地域の中核的な生産拠点となる南大東地区ほか8地区において、安定した漁業生産等に資する施設機能の強化として防波堤や岸壁、用地等の整備により、産地における価格形成力の向上と生産・流通コストの縮減を図る。

### ②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
志喜屋	養殖拠点	浜活	志喜屋	1	糸満

- ・モズクの水産物生産拠点地域である志喜屋地区において、就労環境改善のため防暑施設等の整備により、国内外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点の形成を促進する。

## (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
琉球	環境変化	水産環境

- ・沖縄地区において、沿岸域の資源低下等の海洋環境変化に対応し、沖合域への漁業展開を促進するため、浮魚礁の整備を行うとともに、圏域内の沿岸域において、海域の環境変化を把握するため亜熱帯海域の重要な基礎生産の場であるサンゴのモニタリング調査を検討する。

### ②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
泊	安全・安心	水産生産	泊	2	糸満
当添	安全・安心	水産生産	当添	1	糸満
渡名喜	安全・安心	水産生産	渡名喜	1	糸満
牧港	安全・安心	水産生産	牧港	1	糸満
港川	安全・安心	機能強化	港川	1	糸満
沖縄南部	予防保全	機能保全	阿嘉	1	糸満
沖縄南部	予防保全	機能保全	海野	2	糸満
都屋	予防保全	機能保全	都屋	1	糸満
糸満南	予防保全	機能保全	糸満	3	糸満
沖縄中部	予防保全	機能保全	宜野湾	1	糸満
嘉手納	予防保全	機能保全	嘉手納	1	糸満

泊	予防保全	機能保全	泊	2	糸満
うるま	予防保全	機能保全	南原	1	糸満
奥武	予防保全	機能保全	奥武	1	糸満
阿波連	予防保全	機能保全	阿波連	1	糸満
阿嘉	予防保全	漁村環境	阿嘉	1	糸満
港川	予防保全	漁村環境	港川	1	糸満

・泊地区ほか4地区において、地震・津波・波浪等に帯する防波堤や護岸、岸壁等の安定性を確保するため、防災対策を行うとともに、沖縄南部地区ほか10地区において、老朽化が進行している漁港施設の機能保全計画の見直しや予防保全型の老朽化対策を行う。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

・圏域内の漁協において、漁業所得向上のための取組や「浜の活力再生プラン」を作成・実施による地域活性化を図るとともに、地域の漁業実態に応じた漁港の活用促進のため、水域施設や漁港用地等について有効活用を検討する。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
渡名喜	生活環境	水産生産	渡名喜	1	糸満
阿嘉	生活環境	水産生産	阿嘉	1	糸満
泡瀬	就労環境	水産生産	泡瀬	1	糸満
牧港	就労環境	水産生産	牧港	1	糸満
港川	就労環境	漁村再生	港川	1	糸満
宜野湾	就労環境	漁村再生	宜野湾	1	糸満
南城Ⅲ	就労環境	漁村再生	志喜屋	1	糸満
奥武	就労環境	漁村再生	奥武	1	糸満
浜川	就労環境	漁村再生	浜川	1	糸満

・離島の生活航路を有する渡名喜地区及び阿嘉地区において、防波堤や航路等の整備による生活環境の安全対策向上を図るほか、泡瀬地区ほか5地区において、浮棧橋や防暑施設等を整備し、就労環境の改善を図る。

## 4. 環境への配慮事項

・整備計画の策定及び工事の実施にあたっては景観、近隣住民との調整に配慮し、施工にあたっては水質悪化により漁業被害、サンゴ礁等に対する環境破壊等が生じる

ことがないよう留意する。

### 5. 水産物流通圏域図

